◇学長表彰に係る学生の学業並びに研究活動等の功績

学長表彰候補者推薦調書【個人】
【大阪公立大学】

氏名 Name	推薦理由・成績（功績の内容） Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／（開催年月日　date）	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
青木　尚人	右記の国際会議での発表が優れた内容であると評価を受け「Honorable Mention Award」を受賞した. ・表題「Analysis of LLM-Based Narrative Generation using the Agent-based Simulation」 ・内容 Agent-based Simulation (ABS) による LLM ベースの物語生成技術の紹介 ・評価された点 提案手法を様々な評価指標で評価し、他の手法と比較した。 提案アプローチが、ストーリーの多様性を確保しつつ、与えられた条件に忠実にコンテンツを生成できることを示した。 さらに、提案アプローチの限界と可能な拡張について詳細かつ興味深い分析を行った。	15th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2023-Winter) (2023.12.11-13)	大会概要 情報科学関連の国際会議であり，複数の国際会議の合同会議である. 規模 参加者数：100 ~ 200 人 (19ヵ国) 発表数：45 件 (フルペーパー : 25 件, ショートペーパー : 20 件) 受賞者数：10 ~ 20 人 (Best Paper Award, Outstanding Paper Award, Competitive Paper Award, Honorble Mentions) 採択率 : 27.9 % (45 / 161)
大和　秀徳	右記の国際会議での発表が優れた内容であると評価を受け「Competitive Paper Award」を受賞した. ・表題「Trainable Weighted Pooling Method for Text Classification with BERT」 ・内容 Transformer の encoder 層に学習可能な重み付きプーリング層を導入することでテキスト分類モデルの性能を向上させた. ・評価された点 提案手法によって従来手法よりも効果的であることを示した点. 研究が適切に実施された点．レビューにおいて高いスコアを獲得した.	15th International Congress on Advanced Applied Informatics (IIAI AAI 2023-Winter) (2023.12.11-13)	大会概要 情報科学関連の国際会議であり，複数の国際会議の合同会議である. 規模 参加者数：100 ~ 200 人 (19ヵ国) 発表数：45 件 (フルペーパー : 25 件, ショートペーパー : 20 件) 受賞者数：10 ~ 20 人 (Best Paper Award, Outstanding Paper Award, Competitive Paper Award, Honorble Mentions) 採択率 : 27.9 % (45 / 161)
岡崎　成音	右記の学会において行った発表がすぐれた内容であると評価を受け「IEEE GCCE 2023 Excellent Student Postar Award, Silver Prize（銀賞）」を受賞した. ・題名：A Method for Removing Shadows and White-Outs on QR Code Images by Deep Learning ・内容：本研究はQRコードにかかる影やハレーションを除去するための深層学習モデルを提案し，その有効性を検証している. ・第2著者である当該学生は，深層学習モデルであるpix2pix，および実験用ツールを制作し，本研究の基礎となる多数の実験を行なうと共に，第1著者の実験指導，実験結果の検証を行った．また，第1著者の論文執筆の補助等を行った.	2023 IEEE 12th Global Conference on Consumer Electronics(2023/10/10)	【大会概要】 米国電気電子学会IEEEのConsumer Electronicsソサイエティ主催の国際会議. 【規模】 発表数：650件（ポスター発表含む） ポスター発表：141件 学生ポスター発表受賞：6(金1銀1銅1奨励賞3)
畠山　響	右記の学会において行ったポスター発表が，優れた内容であると評価を受け「最優秀プレゼンテーション賞」を受賞しました. ・標題「サッカー分析のためのログ可視化システム」	人工知能学会 社会におけるAI 研究会 第47回研究会/（2023/11/4）	【共著者】 中田　光紀 下田　萌喜 楠木　祥文 中島　智晴 秋山　英久（岡山理科大学） 【大会概要】 RoboCupに関する研究成果を発表する年次研究会です. 【規模】 発表数：5件 受賞者数：2名
竹内　未佳	日本化学会秋季事業 第13回 CSJ化学フェスタ2023（2023年10月17日(火)～19日(木)　タワーホール船堀）にて下記演題のポスター発表について、1) 研究に対して発表者が十分に寄与していること、2) 質疑応答に優れていること、3) 独自性が認められ、今後の発展が期待できること、の3つの観点から審査させ、本発表が優秀と判断され「優秀ポスター発表賞」を受賞した。 講演題目「生体/光触媒複合系によるCO_2ガスを直接原料に用いた可視光駆動型プラスチック原材料合成 」 合計1,002件の発表のうち182件の「優秀ポスター発表賞」が選出された。	日本化学会秋季事業 第13回 CSJ化学フェスタ2023/（2023/10/17－19）	【大会概要】 CSJ化学フェスタは公益社団法人日本化学会が主催し秋季事業として開催される。産学官の最先端研究、連携・交流深耕、企業や研究機関、学生の研究成果を発表、発信する「フェスタ企画」と社会に広く化学を発信する「公開企画（無料）」で構成されている。 【規模】 総参加者数約2,600名。 【その他特記事項】 当該表彰対象業績に関連して以下の学術論文が掲載され、表紙絵にも採択されている。 Mika Takeuchi and Yutaka Amao"An effective visible-light driven fumarate production from gaseous CO2 and pyruvate by the cationic zinc porphyrin-based　photocatalytic system with dual biocatalysts" Dalton Transactions, 2024, 53, 418-422.
師田　慧	物理系の国際的学術ジャーナルに、第一著者論文１報、共著者論文2報が掲載された。		1. "Magnetic properties of a spin-1/2 octagonal lattice", S. Morota, T. Kida, M. Hagiwara, Y. Shimura, Y. Iwasaki, and H. Yamguchi, Physical Review B 109, 054401 (2024) 2. "Quantum gapped state in a spin-1/2 distorted honeycomb-based lattice with frustration", H. Yamaguchi, S. Morota, T. Kida, S. Shimono, K. Araki, Y. Iwasaki, Y. Hosokoshi, and M. Hagiwara, Physical Review Materials 7, 104403 (2023) 3. "Field-induced quantum phase in a frustrated zigzag-square lattice", H. Yamaguchi, K. Shimamura, Y. Yoshida, A. Matsuo, K. Kindo, K. Nakano, S. Morota, Y. Hosokoshi, T. Kida, Y. Iwasaki, S. Shimono, K. Araki, M. Hagiwara, Physical Review Materials 7, L091401 (2023)
宮田　健太郎	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Presentation Award for Student Session」を受賞した。 ・標題「Development of Numerical Analysis Method for Cavity Flame-Holder in Supersonic Flow Using Building-Cube Method」 ・内容：超音速内部流れ場用の直交格子積み上げ法（Building-Cube Method, BCM)を開発し、超音速流中でのバックステップモデルおよびキャビティ保炎器モデルを対象に、開発したCFDソルバーの妥当性の検証を行い、本ソルバーの有用性を明らかにした。 ・評価を受けた点：優れたポスター発表を行ったことが評価された。	The 20th International Conference on Flow Dynamics/ (2023/11/6-8)	【大会概要】 年に１回、流体力学分野に関する最先端の科学分野や最先端技術についての研究成果の発表、議論を行う国際学会です。 【規模】 発表数：480件（ポスター発表含む） 受賞者数：３名
川上　航平	①学術誌「Journal of Hazardous Materials」に掲載された。 ・標題「Performance evaluation of PM, NOx, and hydrocarbon removal in diesel engine exhaust by surface discharge-induced plasma」	①Journal of Hazardous Materials Volume 462(2024) 132685 （2024/01/15発行）	①学術誌 【タイトル】 Performance evaluation of PM, NOx, and hydrocarbon removal in diesel engine exhaust by surface discharge-induced plasma 【概要】 環境科学と工学の分野での世界的な研究を促進する国際的学術誌です。2022年でImpact Factorが13.6、CiteScoreが20.2と世界的に著名な学術誌です。

西谷　聡汰	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「若手優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「5513　過疎地域における空き家再生の仕組みと地域波及　和歌山県海南市冷水浦を事例として」 ・内容：和歌山県冷水浦での空き家再生が地域に波及してまちづくりに展開するプロセスや仕組みを解明し、過疎地域でリノベーション活動を行う可能性を明らかにした。 ・評価を受けた点：研究内容の先進性および研究発表の的確性が評価された。	2023年度　日本建築学会大会/（2023/9/12～15）	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、建築学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。分野は材料施工、構造、防火、環境工学、建築計画、農村計画、都市計画、建築社会システム、建築歴史・意匠、海洋建築、情報システム技術、教育があります。 【規模】 参加者数：10,000人（全分野） 発表数：695件（建築計画分野のみ） 賞の審査対象：30歳未満 授賞件数：審査対象件数の10%程度 受賞者数：46名（建築計画学分野のみ）
池田未来	①右記の学術論文誌に投稿した論文が，編集員会での審議の結果，有用な論文であることが認められ，掲載されました． ②右記の学会において行った発表が，優れた内容であると評価を受け「優秀講演賞」を受賞した． ・標題「鋼箱桁橋のフランジが腹板の曲げ座屈耐荷力に与える影響に関する解析的研究」 ・研究成果をわかりやすくかつ豊かな表現方法で発表したこと．	②令和5年度土木学会第77回年次学術講演会/(2023.915-16)	① 題目「鋼箱桁橋のフランジ拘束効果が腹板の曲げ座屈耐荷力に与える影響」 著者：＊池田 未来, 山口 隆司, 新井 進太郎 雑誌名：鋼構造論文集，Vol.30，No.120，pp.19-30 発行日：2024年1月 ② 【大会概要】 年に1回，土木学会の7つの研究部門が集まり，学術・技術研究の成果を発表する全国規模の大会です． 【規模】 参加数：10452 人 発表者数：385人(I部門) 受賞者数 :27 人(I部門)
関本　将貴	右記の学会において行った発表が，優れた内容であると評価を受け「優秀講演賞」を受賞した． ・標題「GFRP壁高欄基部接合部のボルト配置が曲げ性能に及ぼす影響」 ・研究成果をわかりやすくかつ豊かな表現方法で発表したこと．	第15回　複合・合成構造の活用に関するシンポジウム/ （2023/11/9-10）	【大会概要】 2年に1回，複合構造，合成構造に関する研究成果の発表，議論を行う全国規模の学会です． 【規模】 参加者数：100人程度 発表数：52件 受賞者数：5名
森川　和慶	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Student Paper Award」を受賞した。 ・標題「Optoelectronic Synaptic Characteristics of Organic Transistor Memories with Organic Semiconductor Floating Gates」 ・塗布型有機フローティングゲートメモリにおいて発現したシナプス特性及びその発現機構について報告した。赤色LED照射下でゲートパルス電圧印加した際には、光強度やゲート電圧印加時間に応じてドレイン電流値の時間減衰が変化するシナプス特性が得られることが分かった。この特性には長波長光照射下におけるフローティングゲート層での光キャリア生成及び半導体層への電子トラップが関与していることを示した。 ・評価を受けた点 申請者らが開発した新規有機メモリで、新規現象を見出し、その発現メカニズムについて新しい解釈を提案した。今回取り扱った有機トランジスタのシナプス応用に関する研究は国内では例が無く先駆的な取り組みとなる。以上が評価されて受賞に至ったものと考えられる。	The 30th International Display Workshops/ （2023/12/6~2023/12/8）	【大会概要】 年に1回開催される、アジア最大級のディスプレイ技術分野の国際ワークショップである。ディスプレイ技術によって分類された13のワークショップに加え、発表プレゼンテーションの内容に関連する実際のデバイスや技術を見て体験できるデモセッションが設けられている。 【規模】 参加者数：約995人 発表数：465件（ポスター発表含む） 受賞者数：Best Student Paper Award 13名
三森　徹史	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「全国大会優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「ゼロカーボンキャンパス達成に向けた新型太陽電池の導入における一検討」 ・内容:ペロブスカイト太陽電池という新しい太陽電池を用いたシミュレーションを行った.	第41回電気設備学会全国大会/ （2023/8/31）	大会概要: 電気設備に関係のある最近行った研究及び調査の結果を報告する全国規模の学会です. 大会規模 参加人数:約700人 発表数:220件 受賞者数:33名
宮本　将弥	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「電気学会優秀論文発表賞」の受賞が決定した。 ・標題「パラメータ同定を用いたPMASynRMの全速度領域における電流ベクトル制御法」	電気学会　モータドライブ/回転機合同研究会 （2023/10/11）	【賞の概要】 電気学会の各技術委員会主催研究会における1年間の発表から特に優秀な論文発表が選定される賞 　2023年の発表数：159件 　受賞者数：2名
向山　理一朗	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「電力技術委員会奨励賞」を受賞した。 ・標題「卸電力市場におけるノンファーム型接続電源の発電計画手法」 ・内容「ノンファーム型接続電源が出力抑制を回避し、卸電力市場での利益を最大化するための発電計画手法を提案した。」 ・電力技術委員会での協議により奨励賞に選出された。	2023年電力技術・電力技術合同研究会 /(2023/9/25-26)	【大会概要】 電気学会の会員・非会員問わず、専門分野ごとに論文を発表し、討議できる公開の場としての全国規模での学会です。 【規模】 発表数：120件
菅野　司	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け、「学生ポスター奨励賞」を受賞した。 標題：「熱光学係数の高い液体充填材を用いたキャピラリー封入型LPFGセンサの温度感度特性の向上に関する検討」 内容：光ファイバセンサの一つであるLPFG（long period fiber grating）を実用的に用いる場合の構成であるキャピラリー封入型LPFGセンサに対して、キャピラリー内に高熱光学係数を有する液体を充填することで、同センサのの高感度化が実現出来ることを、理論的、実験的に明らかにすると共に高感度キャピラリー封入型LPFGセンサを実現した。 評価を受けた点：充填材として従来使用されていなかった液体を用いて高感度化を実現した	電子情報通信学会　光ファイバ応用技術研究会（OFT） 2023年度 第4回研究会 2023年10月12日(木)	【概要】 電子情報通信学会　光ファイバ応用技術研究会（OFT）は、光ファイバ分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の研究会です。第4回研究会は、年に1回、学生の発表の場として設けているものである。本業績は第4回研究会の優秀な学生発表に送られるものである。。 【規模】 参加者数：80人 発表数：27件 受賞者数：4名
	電子情報通信学会　光ファイバ応用技術研究会（OFT）において、2023年度の学生発表に対して、年間を通して優れた内容であると評価を受け、「学生奨励賞」を受賞した。 標題「パッケージングした長周期ファイバグレーティングの温度感度向上に関する研究」 内容：光ファイバセンサの一つであるLPFG（long period fiber grating）を実用的に用いる場合の構成であるキャピラリー封入型LPFGセンサに対して、キャピラリー内に高熱光学係数を有する液体を充填することで、同センサのの高感度化が実現出来ることを、実験的に明らかにした。 評価を受けた点：充填材として従来使用されていなかった液体を用いて高感度化を実現した	電子情報通信学会　光ファイバ応用技術研究会（OFT）	【概要】 電子情報通信学会　光ファイバ応用技術研究会（OFT）は、光ファイバ分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の研究会です。本業績は年間を通じて優秀な学生発表に送られるものである。 【規模】 参加者数：600人 発表数：102件 受賞者数：5名

手島　僚也	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「ポスター賞」を受賞した。 ・標題：「カルバゾールを基盤とする溶液塗布型OLED用ホストポリマー材料の創出」 ・内容：カルバゾール部位を有する新規ビニルモノマーを用いて共重合体およびホモポリマー体を合成し、それらをOLED用発光層ホストとしての有用性について発表した。 ・評価を受けた点：価値のある極めて優秀なポスター発表を行い、本会の今後の発展に大いに寄与するものであると認められた点。	2023年度色材研究発表会/（2023/11/7, 8）	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、色材関連分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者：171人 発表数：86件（ポスター発表含む） 受賞者数：21名、うちポスター賞8名
池田　光	①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀学生講演賞」を受賞した。 ・標題「テトラゾリウム塩の拡散電流に基づいた細菌活性計測」 ②右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「学生優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「テトラゾリウム塩の電流応答に基づいた細菌活性評価法の開発」	①2023年電気化学秋季大会／（2023/9/12） ②第６９回ポーラログラフィーおよび電気分析化学討論会／(2023/10/25)	①【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、電気化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：44件 受賞者数：5名 ②【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、電気化学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：34件 受賞者数：4名
音野　智哉	右記の学会において行ったポスター発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀発表賞」を受賞した。 ・発表題目「多硫化ナトリウム融液を介した酸硫化物ガラス電解質の常圧合成」	日本セラミックス協会 第54回ガラス部会若手セミナー/ （2023/8/31-9/2）	【概要】 年に1回、学生およびガラス研究に携わる産学官の若手を対象とした全国規模の講演会セミナー。気鋭のガラス研究者を招き、ガラス研究の基礎から最先端の技術をご紹介する講演、企業紹介・研究室紹介，ポスター形式による研究発表の各セッションもある。 【規模】 参加者数：不明 招待講演者：6名 ポスター発表数：47件 受賞者数：8名、うち最優秀発表賞1名（ポスター発表のみ）
岡村 大毅	2023年9月11日～13日、福岡大学 七隈キャンパスで開催された全国規模の化学工学会第54回秋季大会において、「分子動力学計算を利用したクチナーゼへの有機溶媒耐性付与」と題したポスター発表を行い、「バイオ部会優秀ポスター賞」を受賞し、本学の名誉向上に貢献した。	化学工学会第54回秋季大会 （2023年9月11日～13日）	【大会概要】 年に2回、産官学を問わず、化学工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：2,138名 バイオ部会学生ポスター発表数：93件 受賞者数：13名
三宅　章太	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「AIChE PTF Student Poster Award」を受賞した。 ・標題 "Dry granulation of cathode active material and solid electrolyte powders for all-solid-state batteries"	2023 AIChE Annual Meeting/ (2023/11/5-10)	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学分野に関する研究成果の発表、議論を行う世界規模の学会です。 【規模】 対象ポスター発表数：18件 受賞者数：2名
田嶋　将也	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター賞」を受賞した。 ・標題「ナノ粒子の細胞膜透過現象にコレステロールが及ぼす影響」	第54回　化学工学会第54回秋季大会/ （2023/9/11-13）	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 対象ポスター発表数：83件 受賞者数：13名
松本　穣之介	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「プレゼンテーション賞」を受賞した。 ・標題「圧縮試験による混練状態の定量的解析」	第54回　化学工学会第54回秋季大会/ （2023/9/11-13）	【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、化学工学に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表者数：64名 受賞者数：10名
冨吉　篤	2023年9月11日～13に行われた化学工学会第54回秋季大会のおける材料•界面部会シンポジウム（ポスター発表部門）において、優秀ポスター賞を受賞しました。 ・表題「pH勾配下における高分子液滴とカチオン性界面活性剤の複合体の走化性機構の解明」 ・ドラッグデリバリーやエネルギー変換技術への応用のため、運動性細胞の模倣システムの開発が行われている。異種の高分子溶液の水性二相分離による生体適合性のある液滴とその界面を安定化させる界面活性剤を用いた系では液滴にpH勾配を付与すると走化性を発現する。この非平衡現象についての解析とモデル化に取り組んだ。 ・ポスターの見やすさ、ポスタープレゼン、質疑応答、創意工夫に関する評価を受け、優秀である点（上位10%以下）が評価されました。	化学工学会第54回秋季大会 材料•界面部会シンポジウム（ポスター発表部門）	【大会概要】 化学工学会では年２回産学官の研究者が集まって化学工学に関する研究成果の発表や議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加人数：約4500人（オンライン参加者も含む） 発表数：1054件（ポスター発表を含む）、審査対象83件 受賞者数：6名
西浦　麻里菜	以下の優れた功績 [1]優秀発表賞 右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受けポスター賞の中でも最も優秀な発表トップ５に送られる「Chemistry Letters Young Researcher Award」を受賞した。 発表題目「プルシアンブルー類似体におけるアルカリ金属置換がもたらす構造変化 Structural control of Prussian Blue analogues by alkali metal substitution」	[1] 錯体化学若手の会　夏の学校2023 2023年8月2日（水）午後 ～ 8月4日（金） ※HPで開催要項を告知し、全国から参加者を募る、全国規模の研究会である	[1] HPで開催要項を告知した上で全国から参加者を募る、毎年1回開かれる全国規模の研究会である。 ポスター発表106件中（発表者内訳：学部生４名、修士課程86名、博士後期課程15名、ポスドク1名）、特に優れた発表トップ５に選ばれ、Chemistry Letters Young Researcher Awardが与えられた。 その他、理系大阪公立大学の理系女子大学院生チームIRISに所属し、学内外における活発な交流により自己成長に努めると共に、女子中高生とその保護者向けに、本学の物質化学生命系専攻の研究の紹介や自身の学生生活を紹介し、理系女性研究者のロールモデルとして活動してきた。 研究活動で優れた功績を残すのみならず、上述の活発な活動により本学の名誉の向上に大きく貢献しており、西浦麻里菜氏を学長表彰に強く推薦する。
森本　悠介	①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Student Poster Prize」を受賞した。 標題「Acceleration of thermal bleaching reaction of a diarylbenzene having methoxy groups by proton coordination」	①10th International Symposium on Photochromism (ISOP2023) /（2023/11/7～2023/11/10）	①【大会概要】 数年に1回、世界中の研究者が参加し、フォトクロミズム分野に関する研究成果の発表、議論を行う国際学会です。 標題「Acceleration of thermal bleaching reaction of a diarylbenzene having methoxy groups by proton coordination」
髙嶋　克彰	右記の第72回高分子討論会にて、高分子学会優秀ポスター賞を受賞した。 ・表題「化学増幅型3成分ノボラックレジストにおけるアセタールで保護した溶解抑制剤の開発」 ・電子回路の作製に必要不可欠なフォトレジストは、生産効率の向上のために高感度化が求められる。本研究では、ノボラック樹脂、光酸発生剤、溶解抑制剤で構成される化学増幅型3成分ノボラックレジストの溶解抑制剤にアセタールを取り入れ、高感度化した。また、数種類のアセタールを用いて、感度とアセタールの反応性との関係の解明に取り組んだ。 ・予稿原稿による第一次審査を経て、当日二次審査で、ポスターの出来具合、発表態度、発表内容を総合的に評価された。	第72回高分子討論会/(2023/9/26-28)	【大会概要】 高分子科学の基礎的分野や機能性ならびに高性能材料などの応用分野の約1,900件以上の研究発表やレビュー、招待、受賞講演が行われる三大行事の内の1つで年1回開催されます。 【規模】 発表者：760人（ポスター発表のみ、口頭発表除く） 審査対象：580人 受賞者数：59人

岡村　沙南	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Poster Award」を受賞した。 ・標題「Temporal and spatial variations of nitrogen dioxide fluxes by eddy covariance method in an urban center, Sakai, Japan」 ・堺市の中心部において渦相関法において都市からのNO2排出量を連続観測し、NO2排出量とその週内変化、季節変化、空間変動を明らかにした。また、移動観測システムを開発して、堺市内のNO2排出地点を特定した。 ・英語により、海外研究者と熱心にポスターを用いて議論した。	ASIAFLUX CONFERENCE 2023 2023/11/27 - 12/1 Jeju, Korea	【大会概要】 年に1回、アジアの国々のフラックス観測を実施している研究者、或いはフラックスデータを利用している研究者が、フラックス・環境・気象分野に関する研究成果の発表、議論を行う国際学会です。 【規模】 発表数：169件（ポスター発表含む） 受賞者数：3名
松本　隆聖	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀ポスター発表賞」を受賞した。 ・標題「立体選択的ヘテロDiels-Alder反応を触媒する人工金属酵素の開発」 ・内容： 非常に高い立体選択性を示すC-C結合酵素を構築した ・評価を受けた点：1) 研究に対して発表者が十分に寄与していること、2) 質疑応答に優れていること、3) 独自性が認められ、今後の発展が期待できること	日本化学会秋季事業 第13回 CSJフェスタ 2023 (2023/10/17～19)	【大会概要】 年に1回、化学に関して産学官の研究者が集まり研究成果を発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：2600人 発表数：1002件（ポスター発表のみカウント） 受賞者数：182名
永峰　佐久良	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「若手優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「ゲノム編集によるユーグレナのワックスエステル組成改変」 ・内容 ユーグレナが低酸素・嫌気下で合成するワックスエステルは、バイオ燃料への利用が期待されているが、その組成が制御できれば、さらに化成品や化粧品原料など広い用途に活用できる可能性がある。本研究ではCRISPR-Cas9による遺伝子ノックアウトを行うことで、様々なWE組成を有する安定変異株を獲得することを目的に研究を行った。その結果、β酸化逆行経路に存在する酵素のノックアウトにより、合成量を大きく損なうことなく、様々な鎖長のワックスエステルを合成できる株の獲得に成功した。 ・評価を受けた点　ユーグレナは産業的な利用が進みつつあるが、生物による物質生産という側面から活用するためには代謝改変が望ましい。しかし、ユーグレナの物質生産を安定的に改変した例は世界でも存在しない。本研究では、ゲノム編集による安定株作出により、ユーグレナによるテイラーメイドなワックスエステル生産という可能性を切り拓いた点で評価された。	第３８回ユーグレナ研究会研究集会 （2023/11/11）	【大会概要】 年に1回、ユーグレナおよび微細藻類を中心とした研究成果の発表、議論を行う研究集会です。 【規模】 参加者数：100名程度 発表数：19件（学生14件） 受賞者数：4名
橋本　健太	右記の2誌の国際学術雑誌（いずれも査読有り）にそれぞれ第1著者として投稿した2報の原著論文が受理および掲載された。 1）"Isomerization and epimerization of fructose in phosphate buffer under subcritical water conditions" Kenta Hashimoto, Tsugumi Niina, Takashi Kobayashi, Shuji Adachi, Yoshiyuki Watanabe 2）"Production of lactulose from lactose in subcritical buffer solution" Kenta Hashimoto, Shuji Adachi, Yoshiyuki Watanabe	1）Carbohydrate Research 535 (2024) 109003 /（2023/11/29） 2）Process Biochemistry 139 (2024) 51–57 /（2024/1/24）	1）Carbohydrate Research / Impact Factor = 3.1 （査読有り） 2）Process Biochemistry / Impact Factor = 4.4 （査読有り）
東野　颯	修士論文研究結果の一部が，被推薦者が第一著者として，アメリカ化学会の論文誌に掲載された。 （2024年1月10日　アクセプト） ・論文題：Catalytic Antioxidant Activity of Two Diterpenoid Polyphenols of Rosemary, Carnosol and Isorosmanol, against Lipid Oxidation in the Presence of Cysteine Thiol ・内容：ローズマリーのジテルペンポリフェノールの中に，チオールを還元源として，触媒的に働く抗酸化性物質の最初の発見の報告。		掲載誌名：Journal of Agricultural & Food Chemistry 発行団体：American Chemical Society 掲載誌の情報：アメリカ化学会農業食品化学部門の基幹ジャーナル，2 Year Impact Factor 2022: 6.1｜Citations 2022: 151,538| CiteScore 2022: 9.7
吉田　幹央	吉田幹央君は、修士研究「Housing Affordability Risk and Tourism Gentrification in Kyoto City」が、国際学術誌Sustainability（ImpactFactor=3.9/CiteScore=5.8）に、2023年12月に、第一著者で掲載された。この研究は、観光ジェントリフィケーションが都市問題となっている京都市歴史的中心エリアを対象に、宿泊施設の増加と住宅価格の関係性を統計的に分析した研究である。その結果、観光ジェントリフィケーションが住宅アフォーダビリティを悪化させて、地域住民の住宅取得を困難にしている可能性を示した。その研究は、居住環境学分野における学術研究として高い評価を受けて、Clarivate AnalyticsのJournal Citation Reports(JCR)におけるGeography, Planning and Development カテゴリーでQ1ランクに位置づく国際学術オープンアクセス誌Sustainabilityに掲載された。 吉田幹央君は、大阪市立大学での学部4年間と大阪公立大学での博士前期課程2年間に在籍中、合計2本の学術論文をIF付海外学術誌に掲載させており、今後の成長が期待できる。そこで推薦者は、吉田幹央君を学長表彰に推薦する。	IFの高い学術研究論文への採択	雑誌名：Sustainability, Vo. 16, Issue 1, No. 309 (2024)　※ IF=3.9/CS=5.8/JCT(Geography, Planning and Development)=Q1 論文名：Housing Affordability Risk and Tourism Gentrification in Kyoto City 著者：Mikio Yoshida and Haruka Kato 掲載URL：https://doi.org/10.3390/su16010309 ※ORCID:Mikio Yoshida, https://orcid.org/0000-0001-8458-3271
玉野 奨	修士研究のテーマを応用して応募した作品「境環境を重ねて、解く」が環境・設備デザイン賞「学生のための環境デザイン設計競技」2023にて最優秀賞を受賞した。 ・作品名：境環境を重ねて、解く ・審査講評「最優秀賞に輝いたのは「境環境を重ねて、解く」と題された玉野さん沖さんの提案で、住宅どうしの隣棟間隔はあり、道路から車が排除されているものの、道空間が廃れて空洞化してしまった戦後の住宅地を取り上げ、住戸間の狭間の空間に、住戸内のアクティビティーが引き出されるような装置を配置して、住民どうしの交流を促そうとするものでした。少子高齢化して空洞化する住宅地問題に、具体的な一石を投じる優れた案だったと思います。」（審査委員長・早稲田大学 理工学術院建築学科教授　古谷誠章）	環境・設備ﾃﾞｻﾞｲ⊠⊠賞 「学生のための環境ﾃﾞ⊠ｻﾞｲﾝ⊠設計競技」2023課題テーマ 「環境を重ね着する建築」最優秀賞受賞 受賞者： 玉野 奨 / 沖 恵輔 （公開審査会　2023年11月7日）	[設計競技概要] 主催：一般社団法人 建築設備綜合協会 応募資格：大学、専門学校、高専在学中の建築系、環境・設備系の学生 [規模] 「建築・設備デザイン賞」に関連する学生対象の初の設計競技の試み。全国から17グループが応募 webサイト：http://abee.or.jp/designaward/
松村　真衣	修士研究のテーマを応用して応募した作品「道標の家-大地から建ち上がる擁壁と架構-」が「木の家設計グランプリ2023」にて優秀賞を受賞した ・作品名：道標の家-大地から建ち上がる擁壁と架構- ・内容：リモートハウスという課題テーマに対して、移住先の住まいが道標となるような造形を提案 ・風や地面、海、山などの環境による線を取り込み、自分たちが今生きている場所を感じながら暮らせる家というコンセプトが評価された ・建築の内外を横断する動線や、風を取り込む木造架構、移住時の決意を思い出すための塔など、設計時にコンセプトが枝広がりになっており、メインコンセプトを1つ定めて深く掘り下げる提案にするべきだと批評いただいた ・最小限の操作で最大限の効果が得られるよう、カタチを洗練させていくことが大切とアドバイスいただいた	木の家設計グランプリ2023、課題テーマ「リモートハウス-風景と調和する家」優秀賞受賞 受賞者：松村 真衣 / 勝山 奈央 （公開審査会　2023年9月30日）	[設計競技概要] 主催者：株式会社　木の家専門店　谷口工務店 応募資格：大学院修士、学部生、高等専門学校生、専門学校生、高校生として2023年4月1日現在在籍する建築学生を対象 金賞・銀賞・銅賞に続く優秀賞を受賞 2023年度は、3年ぶりの完全対面で、滋賀県立美術館にて開催された。応募作品数は253作品。一次通過した現地審査作品数は96作品。 Webサイト：http://www.dentoumirai.jp
小田原 英義	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「2023年度 日本建築学会情報システム技術委員会 情報・システム・利用・技術シンポジウム若手優秀発表賞」を受賞した。 ・標題：最小2次元Isovist Graphによる平面被覆の最適化 ・内容：計算幾何学，グラフ理論，数理化計画を用いた，最小2次元Isovist Graphという新しい建築・街路スケールの空間分析手法の提案と検証 ・評価を受けた点：従来のSpace Syntaxで解決されていないグラフの連結性を厳密に解決する方法の提案と，Isovistをネットワークモデルとして応用するコンセプトの将来性 受賞情報は以下から参照可能（2023年度受賞者） https://aijisa.org/2023/aijisa-young-presentation-award/	日本建築学会 第46回情報・システム・利用・技術シンポジウム（2023/12/7~8）	【シンポジウム概要】 年に1回、産官学を問わず、建築情報分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模のシンポジウムです。 【規模】参加者数：約200人 発表数：119件（ポスター発表含む） 受賞者数：8名

【大阪市立大学】

氏名 Name	推薦理由・成績（功績の内容） Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／（開催年月日　date）	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
梅原　嵩茉	右記の国際会議におけるポスター発表について、優れた内容であると評価を受け「審査員特別賞」を受賞した。 発表題目：Geospatial Approach to Estimate Population Density in the Castle Town of Edo-Era Osaka Based on Records of Disastrous Fires 内容：絵図や文献記録を空間情報として整理し分析することにより、江戸時代大坂城下町における地域間人口密度の差異を明らかにできることを提示した。 評価を受けた点：歴史的な史料に空間情報を用いた分析を適用することで人口分布の推定につなげる手法について、独自性を有するアプローチおよび研究の発展可能性を期待する点に評価を受けたものである。	PNC 2023 Annual Conference and Joint Meetings (国際会議) 2023年11月3日～5日 於琉球大学	【大会概要】 人文科学を含めた学際的な情報学に関連する研究を発表議論する毎年開催の国際会議です。 2023年の主テーマは「Sea Change: Renewal, Reform and Resolve in Global Arts, Sciences, and Business」 【規模】 参加者数：約200名 口頭発表：85件 ポスター発表：17件 受賞者数：ポスター発表から2件(最優秀賞1件および審査員特別賞1件。本来は最優秀賞1件のみだが急遽追加の特別賞を受賞)
堀内　大右	①右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀演題賞」を受賞した。 ・標題「Diffusion-weighted imaging thermometryによる健常者における脳温度の日内変動の評価」 ・内容：頭部MRI検査で撮影されるdiffusion-weighted imagingを用いて脳温度を測定し、健常人において体温が日内変動を示すのに対して、脳温度は有意な日内変動を示さないことを報告した。 ・評価をうけた点：本研究が健常者の脳温度調節メカニズムの解明に寄与し、脳温度異常を呈しうる疾患群の解釈に役立つ可能性があることが評価された。 ・本発表を元にした学術論文（筆頭著者）が国際学術雑誌（査読付）に掲載された。 ②学術論文（筆頭著者）が国際学術雑誌（査読付）に掲載された。 また、本研究について国際学会にて発表を行った。 ③学術論文（共著者）が国際学術雑誌（査読付）に掲載された。	①第59回日本医学放射線学会秋季臨床大会/(2023/9/15-17)	①【大会概要】 年に1回、産官学を問わず、放射線分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：約5,000人 発表数：173件 受賞者数：7名、うち最優秀演題賞2名、優秀演題賞5名 【発表論文】 Horiuchi D, Shimono T, Tatekawa H, Tsukamoto T, Takita H, Matsushita S, Miki Y. Brain temperature remains stable during the day: a study of diffusion-weighted imaging thermometry in healthy individuals. Neuroradiology. 2023 Aug;65(8):1239-1246. doi: 10.1007/s00234-023-03142-9. （本論文が掲載されたNeuroradiologyは、ヨーロッパ神経放射線学会、日本神経放射線学会、および20か国以上の神経放射線学会のofficial journalである） ②【発表論文】 Horiuchi D, Tatekawa H, Shimono T, Walston SL, Takita H, Matsushita S, Oura T, Mitsuyama Y, Miki Y, Ueda D. Accuracy of ChatGPT generated diagnosis from patient's medical history and imaging findings in neuroradiology cases. Neuroradiology. 2024 Jan;66(1):73-79. doi: 10.1007/s00234-023-03252-4. （本論文が掲載されたNeuroradiologyは、ヨーロッパ神経放射線学会、日本神経放射線学会、および20か国以上の神経放射線学会のofficial journalである） 国際学会での発表は次の通りである。 【標題】Horiuchi D, Tatekawa H, Miki Y, Ueda D. Diagnostic Performance of ChatGPT from Patient History and Imaging Findings in Neuroradiology. 【大会】第109回北米放射線学会（Annual Meeting of Radiological Society of North America）/Chicago/(2023/11/26-30) ・大会概要：年に1回、産官学を問わず、放射線分野に関する研究成果の発表、議論を行う世界最大の学会です。 ・参加者数：約60,000人 ③【発表論文】 Tatekawa H, Ueda D, Takita H, Matsumoto T, Walston SL, Mitsuyama Y, Horiuchi D, Matsushita S, Oura T, Tomita Y, Tsukamoto T, Shimono T, Miki Y. Deep learning-based diffusion tensor image generation model: a proof-of-concept study. Scientific Reports. 2024;14(1):2911. doi: 10.1038/s41598-024-53278-8.
山本祐輝	下記論文がMicroorganisms（Impact Factor 4.5）に掲載された。 ・標題「Oral Microbial Profile Analysis in Patients with Oral and Pharyngeal Cancer Reveals That Tumoral Fusobacterium nucleatum Promotes Oral Cancer Progression by Activating YAP」 ・内容：口腔がんの症例の口腔細菌叢を16sRNA遺伝子解析、および、そのデータを用いたバイオインフォマティクスツール解析により、口腔・咽頭がんでは、口腔内細菌叢が健常人より菌の多様性に変化あることが判明した。さらに口腔・咽頭がんで多く見られる細菌種、*Fussobacterium nucleatum（Fn）*を同定し、患者唾液から本菌を単離し、本菌種を実験動物に投与することにより、FnによりYAP経路が活性化され口腔に扁平上皮癌が出現することを証明した。 ・本研究は口腔細菌が口腔・咽頭がんの発癌に関与することを直接明らかにした貴重な論文であり、口腔がんのメカニズムの解明のみならず、今後の新規治療・予防開発にも大きく貢献することが予想される。また、山本祐輝は臨床においても頭頸部がんの専門医を取得済みであり、口腔癌、咽喉頭癌の手術に関しては200例以上執刀、500例ほど患者を経験しており、臨床医学、基礎医学の両面から口腔・咽頭がんの臨床研究に携わっている。また、学会活動においても頭頸部外科学会での発表を欠かさず行っており、学生・研修医向け「未来の耳鼻科医のために」でも公演するなど、若手頭頸部外科医のひとりとして、活発に学会活動、教育活動、研究活動に従事している。山本祐輝は「口腔細菌と頭頸部領域のがんとの関連研究」のパイオニアであり、今後も積極的に本分野の研究を継続する考えで、頭頸部がんの分野では、貴重なphysician Scientistとして育ちつつある貴重な若手研究者である。	Microorganisms Impact Factor 4.5	Oral Microbial Profile Analysis in Patients with Oral and Pharyngeal Cancer Reveals That Tumoral Fusobacterium nucleatum Promotes Oral Cancer Progression by Activating YAP. Yamamoto Y, Kamiya T, Yano M, Huyen VT, Oishi M, Nishio M, Suzuki A, Sunami K, Ohtani N. Microorganisms. 2023 Dec 10;11(12):2957. doi: 10.3390/microorganisms11122957.
石井　彩香	日本建築学会設計競技にて全国入選・佳作を受賞した。 作品名：Co-LEC――エネルギー循環による住工共存型の産業都市 chrome-extension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.aij.or.jp/jpn/symposium/2023/aijcompe2023.pdf	日本建築学会設計競技　全国入選・佳作 （2023.9.13） （日本建築学会四国支部入選）	日本建築学会は会員数3万人以上の建築に関連する国内最大の学会であり、学会が主催する設計競技は若手建築家の登竜門として現行の形式なってからでも70年もの歴史を持つ由緒ある建築設計競技である。全国から300作品が応募しており、支部入選をした作品から全国審査を行い、全国入選を果たした。全国入選した作品12点について日本建築学会大会（京都大学）で発表し、佳作を受賞するに至った。
櫛引　映里奈	右記の設計競技に応募した作品（久保 優さんと共同応募）が、優れた内容であるとの評価を受け「佳作」を受賞した。 ・標題：自然時計で暮らす家 ・内容：屋外の豊かな自然を内部に取り込むことで自然とともに暮らす家を提案した。 ・概要：京都府では、府内の森林資源として充実している京都府内産スギ、ヒノキの特性を活かした木造住宅や木製家具のアイデアを募集します。	京都府主催第７回Woodyコンテスト 木造住宅部門（学生部門）	【設計競技概要】 木材を暮らしの中で活かし利用していく「木の文化」の継承と、木材の新たな利活用方法を開拓し、建築や家具の設計製作に携わる建築士等の木材への関心を高めて木材利用の推進を図る。 【主催】京都府 【後援】京都府森林組合連合会、一般社団法人京都府建築士会、一般社団法人京都府木材組合連合会
久保　優	右記の設計競技に応募した作品（久保 優さんと共同応募）が、優れた内容であるとの評価を受け「佳作」を受賞した。 ・標題：自然時計で暮らす家 ・内容：屋外の豊かな自然を内部に取り込むことで自然とともに暮らす家を提案した。 ・概要：京都府では、府内の森林資源として充実している京都府内産スギ、ヒノキの特性を活かした木造住宅や木製家具のアイデアを募集します。	京都府主催第７回Woodyコンテスト 木造住宅部門（学生部門）	【設計競技概要】 木材を暮らしの中で活かし利用していく「木の文化」の継承と、木材の新たな利活用方法を開拓し、建築や家具の設計製作に携わる建築士等の木材への関心を高めて木材利用の推進を図る。 【主催】京都府 【後援】京都府森林組合連合会、一般社団法人京都府建築士会、一般社団法人京都府木材組合連合会

松田　真保	右記の特許申請済みの食育アプリ開発において、多大な功績があった。 ・行動科学理論を用いたフィードバックアルゴリズムの構築 ・朝食行動を促すための情報提供システム、および記録データの分析方法の確立 ・本食育アプリは来年度より堺市全体での事業として、本学学部横断での研究として展開されることが決定しており、研究の発展の礎を築いた本学生の功績は非常に大きい。 研究期間中に指導教員の産休育休があったにも関わらず、主体的に研究を続け、食育アプリを完成させ実装までたどり着いたこと、そして今後の研究の発展に貢献したことは推薦に値すると考える。		【特許申請番号】特願2023－216059 【発明の名称】食育システム 【提出日】令和５年１２月２１日 【概要】本発明は、子どもの成長を支援するための健康的な食生活形成の重要性に鑑みて完成された発明であり、その主たる目的は、児童生徒の朝食摂取の習慣化を支援する技術、を提供することにある。 ＊実践栄養系分野での発明は難しく、このような業績を残した学生は推薦者が知る限りおそらく初めてである。

【大阪府立大学】

氏名 Name	推薦理由・成績（功績の内容） Reasons for Recommendation	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会または国内大会 International competition or National competition ／（開催年月日　date）	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
村嶋　春希	右記の大会において行った研究発表において，優れた内容であるとの評価を受け，ポスター部門の「奨励賞」を受賞した 標題：サッカーの攻撃的なパスにおける評価方法の提案 内容：サッカーゲームの攻撃時におけるパスの良し悪しを評価するため，既存の評価方法の問題点を指摘し，それを改善する方法について提案を行い，評価の比較を行った． 評価された点：既存手法の問題点を指摘し，改善部分を提示することのできる提案を行った点	2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション https://sports.ywebsys.net/ サッカー部門 2023年度スポーツデータサイエンスコンペティション 審査会 (シンポジウム「スポーツアナリティクスと統計科学」) 2024年1月6日（土）・7日（日）	【大会概要】 年に1回開催され，全国の産学官を問わず参加可能な，スポーツデータサイエンス分野における国内においては最大規模の大会です．野球やサッカーなど6つの部門で，全96件の研究報告があり，今回出場したサッカー部門のポスターの部では，最優秀賞1件，優秀賞2件，奨励賞1件の表象があった． https://sports.ywebsys.net/news/archives/0024/
徳坂　光彦	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「Best Presentation Award」を受賞した。 【標題】「Effects of Parent Selection Schemes on the Search Performance of Multi-modal Multi-objective Evolutionary Algorithm with Problem Transformation into Two-objective Subproblems」 【内容】実世界最適化問題には、同時に最適化すべき複数の相反する目的をもつ問題がある。その中には、異なるパレート最適解が同じ目的関数値をとるようなマルチモーダル多目的最適化問題がある。以前の研究では、この問題を解く手法としてMulti-modal Multi-objective to Two-objectives(MM2T)を提案した。本研究では、MM2Tの探索性能を向上させるために子個体生成のための親個体選択に注目し、様々な選択戦略が探索性能に与える影響について調査した。	The 24th International Symposium on Advanced Intelligent Systems(ISIS203)/(2023/12/9)	【大会概要】 年に1回、人工知能と知能システムに関する研究成果の発表、議論を行う国際学会です。 【規模】 発表数：約130件（ポスター発表含む） 受賞者数：各セッションごとに1名
服部　冠志	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「特別賞」を受賞した。 ・標題「マルチバブル条件下における音響キャビテーション気泡の物質移動の解明」	第32回ソノケミストリー討論会 （2023/12/7）	【大会概要】 年に1回、ソノケミストリー分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：1,00人程度 受賞対象発表数：34件（ポスター発表含む） 受賞者数：特別賞4名
四方皓大	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「摩擦攪拌接合時の力学的挙動に関する数値解析的検討」 ・【内容】摩擦攪拌接合は接合中および接合後の力学挙動は極めて複雑であり，そのシミュレーションは非常に困難が，力学状態を把握することは非常に有用である．そこで本研究では，Euler型解法による熱弾塑性解析手法を構築し，FSWに適用することで，その有用性について検討する． ・【評価を受けた点】Euler型解析の適用により解析対象が大きく増えた点が期待度の高い研究ということで評価を受けた．	2023年度　軽金属溶接協会　研究成果発表会 （2023/11/28）	【大会概要】 年に1回、軽金属の溶接・接合分野に関する研究成果の発表、議論を行う、若手研究者を対象とした全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：50人 発表数：25件 受賞者数：6名
市川　亮大	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「優秀発表賞」を受賞した。 ・標題「アルミニウム合金溶接時における変形に及ぼす諸因子の影響に関する検討ー温度場に関するパラメータについての検討ー」 ・【内容】アルミニウム合金は軽量かつ比強度が高いため、各種構造用材料としての使用が増えつつあるが、鉄鋼材と比べて変形制御が難しいことが知られている。そこで本研究ではFEM 熱弾塑性解析を用いてアルミニウム合金の加熱時における変形に及ぼす諸因子の影響について検討する。 ・【評価された点】逆反りという未解決の問題意識の提示と、それを無数のシミュレーション結果で表現したこと、および、具体的な解決策を示したことが評価された。	2023年度　軽金属溶接協会　研究成果発表会 （2023/11/28）	【大会概要】 年に1回、軽金属の溶接・接合分野に関する研究成果の発表、議論を行う、若手研究者を対象とした全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：50人 発表数：25件 受賞者数：6名
井上　早希	右記の学会において行ったポスター発表が、優れていると評価を受け「ポスター賞」を受賞した。 標題「Gum arabicに作用するFusarium oxysporum 由来3種のL-アラビノフラノシダーゼの反応特性解析」	第72回　日本応用糖質科学会大会/ （2023/9/13-15）	【大会概要】 年に1回、糖質分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 発表数：116件（ポスター発表79件） 受賞者数：9名
水引　智央	右記の学会において行った発表が、優れた内容であると評価を受け「若手優秀演題口頭発表賞」を受賞した。 標題「新人レベルにある看護師の多重課題におけるセルフモニタリング測定尺度の開発－信頼性・妥当性の検討－」	第43回　日本看護科学学会学術集会/ （2023/12/9-10）	【大会概要】 年に1回、看護学分野に関する研究成果の発表、議論を行う全国規模の学会です。 【規模】 参加者数：約3,800人 発表演題数：1043題（ポスター発表含む） 受賞演題数：38題、うち若手優秀演題口頭発表賞8題

学長表彰候補者推薦調書【団体】

団体名 Name of Team	構成員氏名（代表者に〇） Member's Name (Representative, 〇)	推薦理由・成績（功績の内容） Reasons for Recommendation.	【学会等における受賞等の場合に記入】 国際大会もしくは国内大会 International competition or National competition ／（開催年月日　date）	その他参考事項 Others ※学術誌であれば、タイトルや大会の規模・概要などを記載してください If it is an academic journal, please include the title, scale and outline of the conference, etc.
薄膜挙動計測衛星「ＦｉｌｍＳａｔ」	佐藤　大斗 阿片　雅玖人 桂田　吏輝 小田　五葉 宮路　健誠 松村　昂弥 逢坂　惇志 西尾　圭太 中島　翼 山田　剛志	右記大会は，年に一度，小型衛星をはじめとする様々な宇宙ミッションを創出し、その設計を行い，設計に対する着想点、創意工夫、基礎的な技術知識、将来性、等の様々な観点からすぐれた作品を選考するコンペティションであり，日本機械学会をはじめとするさまざまな学会やJAXAが主催している． 本チームは宇宙で理想的な展開が難しいことが知られる膜構造体の展開時の動特性を、格子投影法を用いて画像分析する技術を示し，審査の結果「スペースフロンティア賞」，「日本航空宇宙学会賞」の2点を受賞した． 【規模】 大会参加学校数：60校 最終審査での発表学校数:16校 受賞数：19賞（最終審査に進む学校すべてに与えられる） 【補足】 今回，設計大賞を受賞したチームは無かった．日本機械学会，日本航空宇宙学会といった二つの学会から賞を得たのはこのチームだけであり，突出した成果と言える．	第31回　衛星設計コンテスト/(2023/11/25) ※以下は本大会主催団体 ・JAXA(宇宙航空研究開発機構) ・日本機械学会 ・日本航空宇宙学会 ・電子情報通信学会 ・地球電磁気・地球惑星圏学会 ・日本天文学会 ・宇宙科学振興会 ・日本宇宙フォーラム ・日本ロケット協会	大会ホームページ http://www.satcon.jp/archive/list31.php